



2021年8月11日

各 位

会 社 名 日本カーバイド工業株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 杉山 孝久
(コード番号 4064 東証第1部)
問 合 せ 先 取締役 執行役員 経営企画部長 横田 祐一
(TEL. 03-5462-8224)

(訂正)「2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正
に関するお知らせ

2021年8月6日に公表いたしました「2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容に一部訂正すべき事項がありましたのでお知らせいたします。

なお、数値データ(XBRLデータ)の訂正はありません。

記

1. 訂正の理由

「1. 当四半期決算に関する定性的情報」及び「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記」において、記載内容の一部に誤りがあることが判明したため、これを訂正するものであります。

なお、四半期連結財務諸表の訂正はありません。

2. 訂正の内容

訂正箇所には下線____を付して表示しております。

〈添付資料3ページ〉

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(建材関連)

【訂正前】

当該事業の主な取扱製品は、ビル・住宅用アルミ建材や内装建材用プラスチック押出製品などありますが、主力の手摺、笠木等の販売は低調だったものの、網戸材は新型コロナウイルスの感染予防対策として換気の推奨による需要が増加したことなどにより、前年同期比増収増益となりました。

以上により、当セグメントの売上高は2,132百万円と前年同期比14百万円(0.7%増)の増収、セグメント利益は106百万円と前年同期比26百万円(32.5%増)の増益となりました。

【訂正後】

当該事業の主な取扱製品は、ビル・住宅用アルミ建材や内装建材用プラスチック押出製品などありますが、網戸材は新型コロナウイルスの感染予防対策として換気の推奨による需要が増加したものの、主力の手摺、笠木等の販売が低調に推移したことなどにより、当セグメントの売上高は1,889百万円と前年同期比229百万円(10.8%減)の減収、セグメント利益は73百万円と前年同期比7百万円(8.8%減)の減益となりました。

〈添付資料9ページ〉

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

【訂正前】

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。この適用により、工事契約に関して、従来は、工事の進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の合計に占める割合に基づいて行っております。なお、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

<後略>

【訂正後】

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。この適用により、工事契約に関して、従来は、工事の進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の合計に占める割合に基づいて行っております。また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることはできないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しております。なお、契約における取引開始日から完

全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

<後略>

<添付資料 10 ページ>

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

【訂正前】

当第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額	四半期連結損益計算書計上額
	電子・機能製品	フィルム・シート製品	建材関連	エンジニアリング	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,096	4,003	1,886	533	11,520	—	11,520
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	70	<u>246</u>	334	<u>648</u>	<u>△648</u>	—
計	5,096	4,073	<u>2,132</u>	867	<u>12,168</u>	<u>△648</u>	11,520
セグメント利益又は損失（△）	765	312	<u>106</u>	△2	<u>1,182</u>	<u>△297</u>	885

【訂正後】

当第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額	四半期連結損益計算書計上額
	電子・機能製品	フィルム・シート製品	建材関連	エンジニアリング	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,096	4,003	1,886	533	11,520	—	11,520
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	70	<u>3</u>	334	<u>407</u>	<u>△407</u>	—
計	5,096	4,073	<u>1,889</u>	867	<u>11,927</u>	<u>△407</u>	11,520
セグメント利益又は損失（△）	765	312	<u>73</u>	△2	<u>1,149</u>	<u>△264</u>	885

以 上